

主な出来事

EVENT

2023年7～9月

	三重・愛知	全国・海外
7月	<ul style="list-style-type: none"> ●名古屋市中区栄に高級ホテル「TIAD オートグラフコレクション」が開業。国際会議などに対応できる多目的ラウンジや室内プールなどを設置。(7/1) ●2023年分の路線価(1月1日時点)が公表され、三重県内平均は前年比▲0.4%と31年連続で下落。愛知県は同+2.6%と2年連続の上昇。(7/3) ●新型コロナウイルスの影響で2019年の開催以来中止となっていた「伊勢神宮奉納全国花火大会」が4年振りに開催。(7/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ●中古車販売の「ビッグモーター」で、故意に車両を傷つけて修理代を水増しし、保険金を過大請求する不正行為が発覚。(7/6) ●欧州連合(EU)は東京電力福島第一原子力発電所の事故後に日本産食品に課してきた放射能検査などの輸入規制を撤廃すると発表。(7/13) ●日銀は大規模な金融緩和策を修正することを決定。長期金利の上限として0.5%程度を目標とし、1%まで容認。(7/28)
8月 フォーカス	<ul style="list-style-type: none"> ●愛知県は米ボストン・コンサルティング・グループ(BCG)の日本法人と地方創生の包括協定を締結。脱炭素や産業振興の促進などで連携。(8/9) ●2023年度の学校基本調査で、三重県内の小中学校に通う子供の数はともに前年度比減少。1948年の調査開始以降最少を記録。(8/23) ●三重県はスタートアップ支援組織「みえスタートアップ支援プラットフォーム」を開設。金融機関や教育機関、経済団体など49の団体が参加。(8/28) 	<ul style="list-style-type: none"> ●米・ハワイ・マウイ島で山火事が発生し、観光地で壊滅的な被害に。米国で起きた山火事の死者数としては、過去100年で最大に。(8/10) ●台風7号の大雨の影響で、東海道・山陽新幹線の東京-博多間全線が一時運休。盆休みのUターンに重なり、東海道新幹線で30万人に影響。(8/16) ●東京電力は福島第一原子力発電所の処理水の海洋放出を開始。中国は強く非難し、日本の水産物輸入を全面的に停止。(8/24)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ●三十三銀行がトラックの荷台に現金自動預払機(ATM)を搭載した「移動店舗車」を導入。鈴鹿市、伊賀市、名張市で運行開始。(9/4) ●三重の魅力を発信する県の首都圏営業拠点「三重テラス」(東京都中央区)が2013年9月の開設から10周年を迎え、リニューアルオープン。(9/16) ●「F1日本グランプリレース」が鈴鹿サーキットで開催。観客数は延べ22万2,000人で、2009年に鈴鹿開催が復活して以降最多を記録。(9/22~24) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ジャニーズ事務所がジャニー喜多川氏による性加害問題で会見を実施。藤島ジュリー景子社長の辞任と東山紀之氏の社長就任を発表。(9/7) ●第18回目となる主要20か国・地域首脳会議(G20サミット)がインドのニューデリーで開催。会議終了時にはG20首脳宣言が採択。(9/9~10) ●第19回夏季アジア競技大会が中国で開催。45か国・地域から1万2,000人がエントリー。eスポーツが正式競技に初採用。(9/23~10/8)

2023年10～12月の予定

	三重・愛知	全国・海外
10月 ~ 12月	<ul style="list-style-type: none"> ●「ジブリパーク」に「もののけ姫」に登場する和風の里山的な世界観を再現したエリア「もののけの里」がオープン。(11/1) ●ご当地グルメの祭典「2023東海・北陸B-1グランプリin四日市」が三重県で初開催。県内外の20団体をご当地グルメを提供。(11/18~19) ●鈴鹿市と松阪市を結ぶ国道23号「中勢バイパス」の鈴鹿工区が開通し、事業化から約40年を経て全線(33.8km)が開通。(11/19) 	<ul style="list-style-type: none"> ●消費税の仕入税額控除の方式として「適格請求書等保存方式(インボイス制度)」が開始。(10/1) ●森ビルが手掛けた、日本一の高さ約330メートルの高層ビルを含む複合施設「麻布台ヒルズ」が東京都港区で開業。(11/24) ●「国連気候変動枠組み条約第28回締約国会議(COP28)」がアラブ首長国連邦(UAE)で開催。(11/30~12/12)

フォーカス

三重発のスタートアップ創出に向けてプラットフォームが設立

2023年8月28日、三重県は三重発のスタートアップ創出を目指す新組織「みえスタートアップ支援プラットフォーム」を設立しました。県内の経済団体、関係機関、全29市町村が会員として参画し、産学官総出でスタートアップの支援・育成に取り組む計画です。

参画数は49社・団体にとり、三重県雇用経済部産業イノベーション推進課に事務局が設置されました。具体的な取り組みとして、会合を開催して情報の共有化を図るとともに、支援機運を高めていきます。また、会員同士の連携支援を広げ、会員とスタートアップとのネットワーク構築も進める方針です。プラットフォームの設立を宣言した一見勝之知事は「少子高齢化など三重が抱える課題解決に寄与するスタートアップを育成したい。プラットフォームに魂を込めて育てていく」と述べました。